科目名（Eng）	技術者倫理(Engineering Ethics)								
担当教員	笠井　哲								
対象学年等	学科・専攻	学年	授業期間	区分	単位数	時間数	分野	形態	学修単位科目
	一般科目（コミ科）	5	後期	必修	1	30	一般	B	
目標基準との対応	福島高専の教育目標との対応：（A-1）．（A-2）．（A-3）．（A-4）．（A-5）．								
	卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応：1)								
	JABEE基準1(1)との対応：（a）．（b）．								
授業の概要と方針	科学技術の歴史と技術者倫理（ビジネス倫理）の基本を学び、事例研究で倫理的判断を学習する。								
到達目標	①技術者倫理（含ビジネス倫理）の基礎を理解することができる。 ②事例研究ではグループ討論を通して、倫理的な判断力を身につけることができる。								

授業計画

	週	授業項目	理解すべき内容	事前学習
後期	16	17世紀科学革命とは何か	科学革命と近代科学の誕生	①配付資料を、順番に整理してファイルしておくこと。 ②前回の学習内容について、毎回誰かに3分でスピーチしてもらうので、整理しておくこと。
	17	ベーコンとデカルト	近代哲学と科学技術	
	18	産業革命と資本主義社会	近代職業倫理と資本主義の精神	
	19	ものづくりと職人の技	技術と技能、技術の伝来	
	20	世界大戦と科学技術	化学兵器と原子爆弾	
	21	資本主義国と発展途上国	人口の爆発、南北格差	
	22	米ソ冷戦時代の科学技術	核とコンピュータの開発	
	23	豊かな生活と環境への負荷	自然権思想、宇宙船地球号	
	24	新しい倫理の課題	ビジネス倫理と技術者倫理	
	25	何のための科学技術か	地球生体のための科学技術	
	26	倫理綱領ないし倫理規定	倫理綱領の内容と意義	
	27	テクノロジーアセスメント	リスクアセスメント	
	28	近現代日本の科学技術思想	福沢諭吉、三木清の技術哲学	
	29	説明責任とＰＬ法	安全性に関する法的・倫理的責任	
	30	まとめ	専門職業人の使命	

試験について	中間試験は実施しない。期末試験は50分の試験を実施する。ただし、再試験の受験は、定められた期限内に課題を提出した者のみに認める。
評価方法	定期試験60%、課題等の総点を40%として総合的に評価する。
教科書	技術者倫理、松島隆裕、学術図書出版社；近現代の日本文化、新保哲、北樹出版
参考書	新聞、ビデオを使用する。
関連科目	人文科学Ｉ、法学、産業経済史
履修上の注意	グループ討論は、いわばロールプレイであるが、リアルに自分の問題と考えて参加すること。